

最後の プレゼント（前編）



烏
賊
松



来た来た

やっぱ胸
でけー!!

ケツも
エロくて
たまんねーっ!!

バカ!
あんまデカイ声
出すなよ
聞こえたら
どーすんだ!!

あっ
こっち
見たー!!

涼子先生ー
愛してるよ
!!

あ
っ
笑
っ
て
る
!!

ヒヤッホー!





俺の姉ちゃんが
新米教師として

俺の通う高校に
赴任してきたのだ

姉ちゃんは
今年大学を出た
ばかりの23歳

今でもたまに
高校生と間違え
られるほどの
童顔だが

身長は165で
スラッとしている

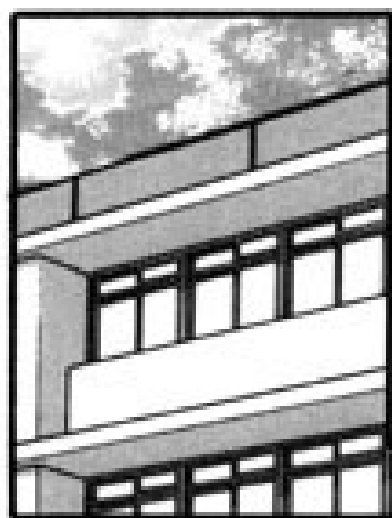
そして胸には
ばっちりパットを
入れたりして
妙にエロイ体系に
見えるから

男子生徒からは
絶大な人気を
得るようになって
しまった

でも法律の関係で
姉ちゃんは弟の俺がいる
クラスで授業をしては
いけない事になっている
らしい



そのお陰で
俺はクラスの男子から
毎日のように文句を
言われている



歳が離れていた事もあり
姉ちゃんは昔から俺を
かわいがってくれた



今でも
その頃と変わらず
俺は姉ちゃんの事が
大好きだ



だから姉ちゃんには
ハイエナみたいな連中
だらけのこんな
イカ臭い学校には
あんまり来てほしく
ない

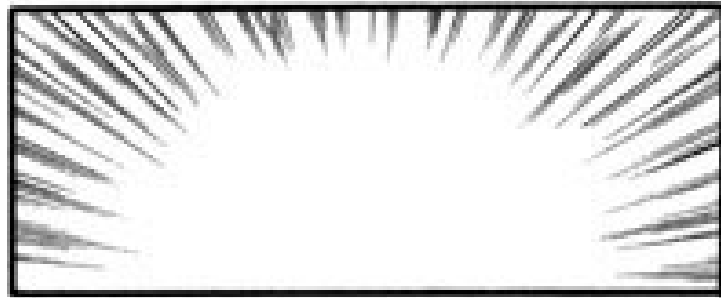


俺も姉ちゃんの事が
大好きで小さい頃は
どこへ行く時も
姉ちゃんにベツタリ
くっついていた



というのが
俺の正直な
気持ちだ

姉ちゃんはいつまでも



俺だけの姉ちゃんだ!!



よう笹野
どうしたんだ?

もしかして
カサ持って来て
ねーのか?



そうなんだよ

悪いけど
バス停までカサに
入れてって
くんない?

ケツ!!

やゝな
こった♪









みつくんと
こんな風に2人で
学校から帰る
なんて初めて
だよ

うん…

でもクラスの奴らに
見られたら
まだブーブー
うるさく言われ
そうだし…

俺学校じゃ
なるべく姉ちゃんの
そばに近寄らない
ように気を付けてる
からね

そっか…

みつくん
色々私に
気を遣って
くれてたんだ

ありがとね

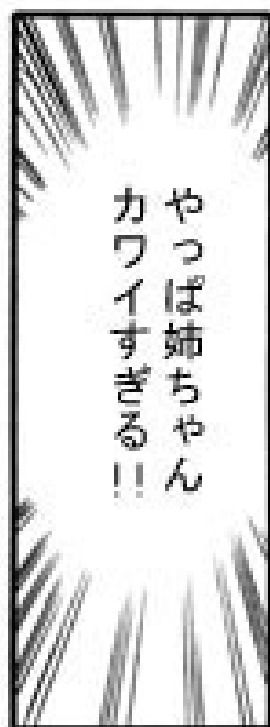
あ！

そういえば！！

明日って

みつくんの
誕生日じゃない？！





やっぱ姉ちゃん
カワイすぎる!!



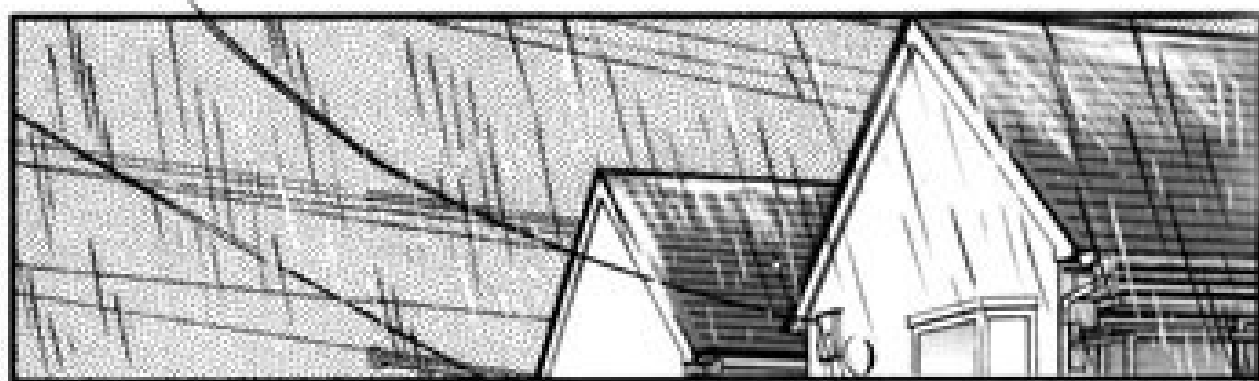
ダメだ

あゝ



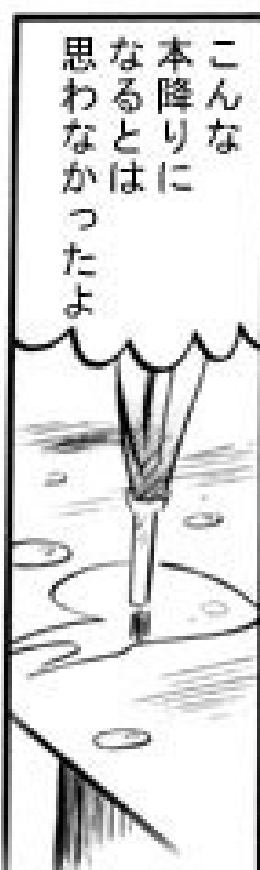
6歳も
年上なのに

…すぐムキに
なったりして



ズブ濡れに
なっちゃった

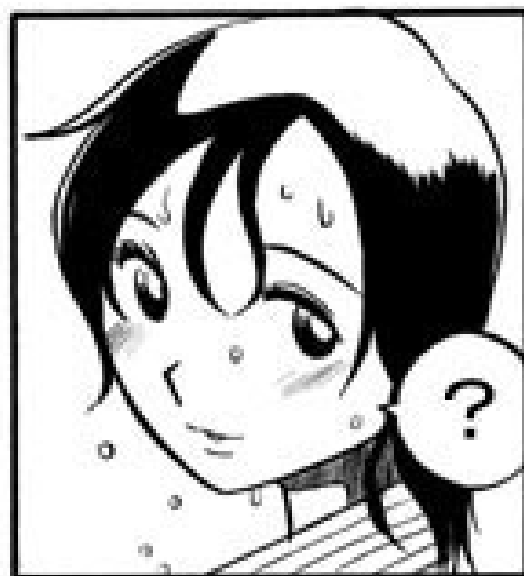
カサさしてる意味
全然なかったね

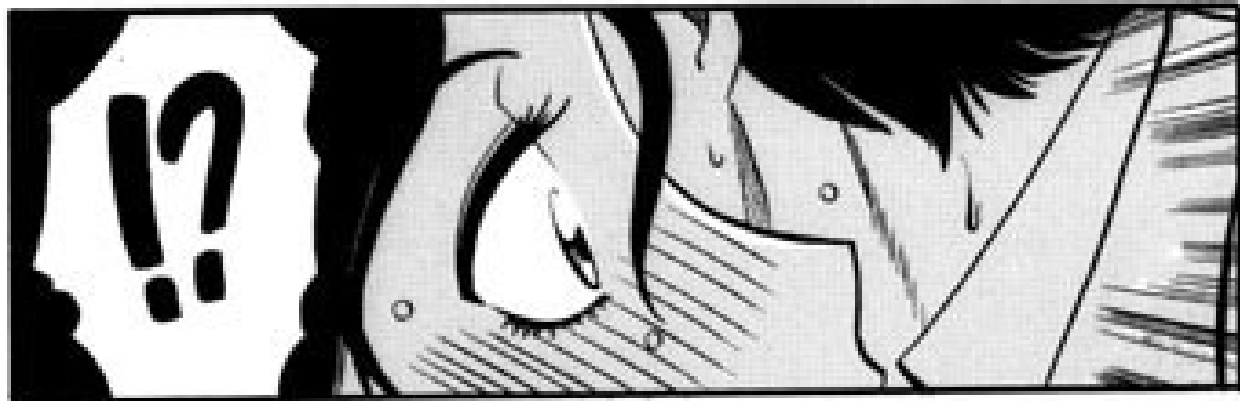


こんな
本降りに
なるとは
思わなかったよ



もう
いや〜ん!!



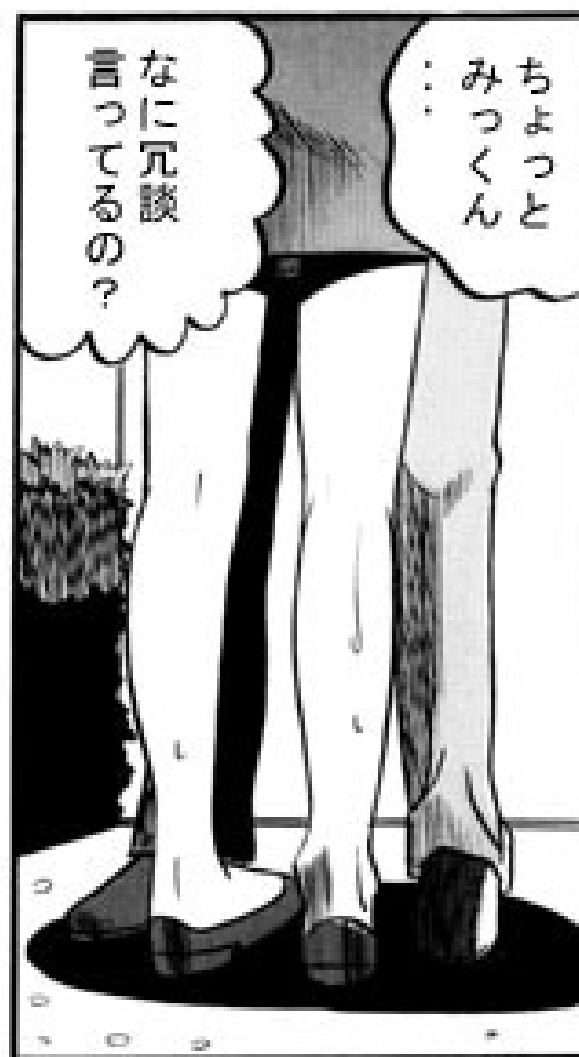


最後の プレゼント（後編）

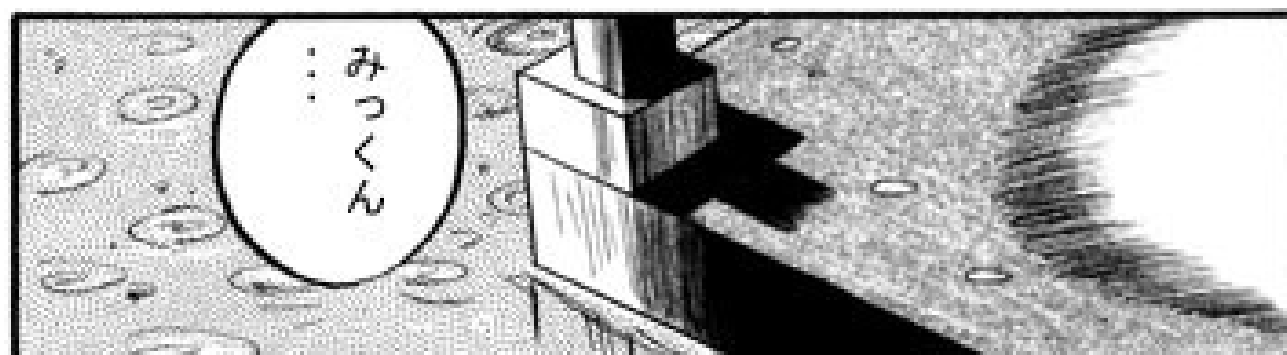


烏賊松

<http://manga.nan-net.com/>











姉ちゃんも
どうしたらいいか
わからないまま

俺につられて
泣き出して
しまった

どうにも湧えない
告白になって
しまったが

そんな一方的な
俺の想いを

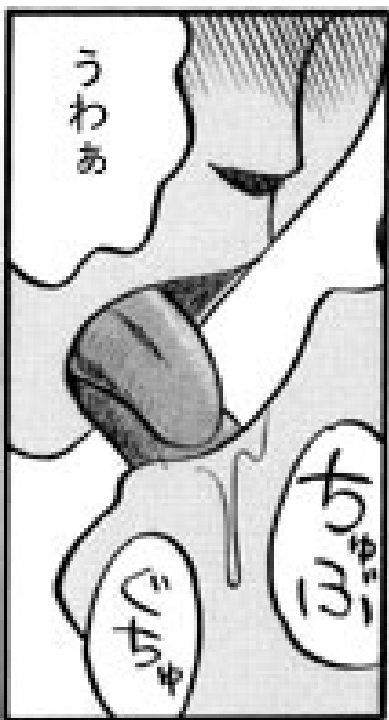
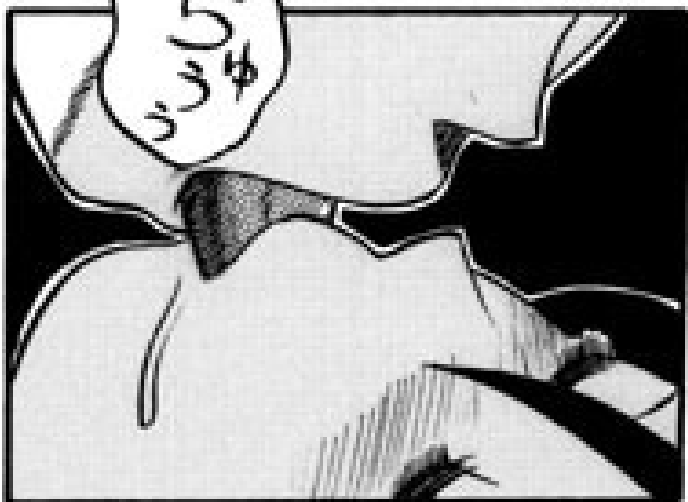


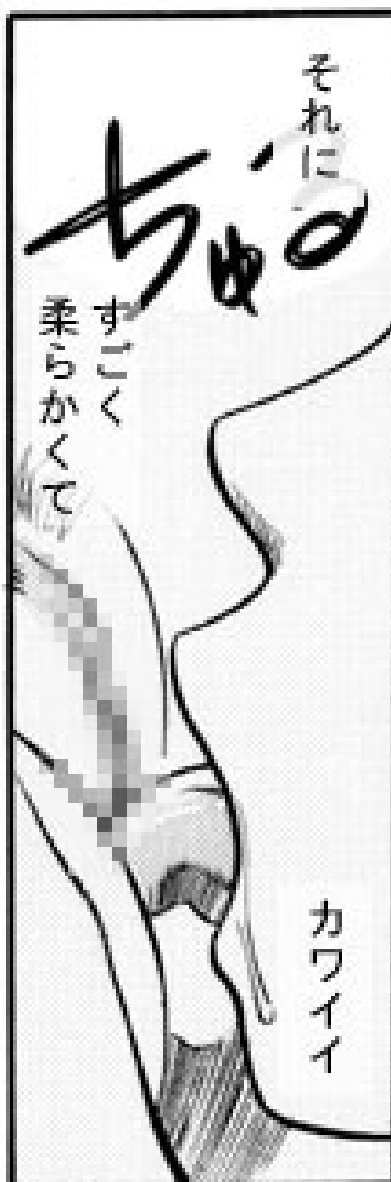
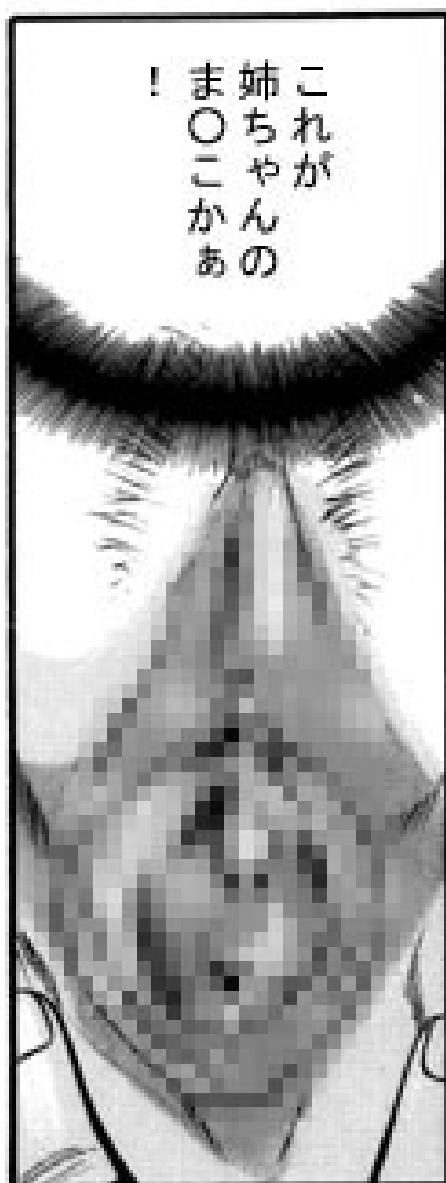
姉ちゃんは優しく
受け入れてくれた

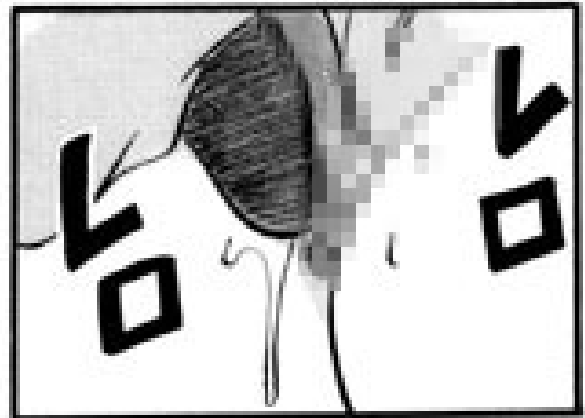
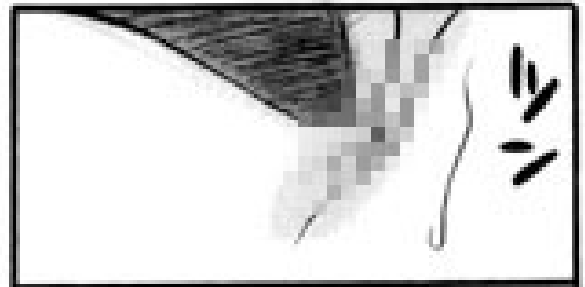












み...

みっくう...ん!

ね...姉ちゃん

俺も...

う...

うん



熱く絡みついてくる
姉ちゃんのま○こは
信じられないくらい
気持ち良くて

俺は10秒も
もたずに
あっけなくイって
しまった



ド

ダメ……!

ね……

姉ちゃん
……?

これ以上
したら

本気でみつくんの事
好きになっちゃうから
……

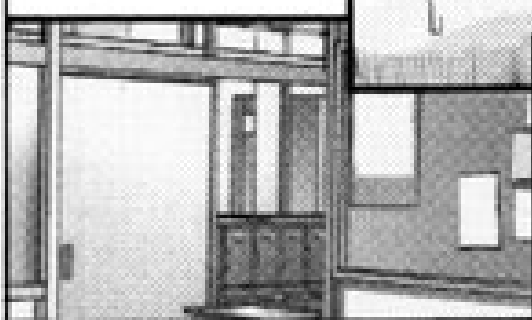


ごめんね

もう
これ以上は
……



俺と二人きりで
会おうとは
しなくなった



それから
しばらくして
姉ちゃんも
家を出て
アパートで
一人暮らしを
始めて

今日も
授業は
上の空



反対側の校舎で
授業をする
姉ちゃんの姿を
ただ見つめる事
くらいしか出来な
くなってしまった

……うふ……

